

# タイの現地理解教育

前泰日協会学校シラチャ校（シラチャ日本人学校）教諭  
愛知県碧南市立鷺塚小学校教諭 林口 晃

キーワード：仏教、シラチャ、現地理解教育、日本型教育の発信、現地校視察

赴任校の概要（2020年6月20日現在）

泰日協会学校シラチャ校

（英語・校名）THAI JAPANESE ASSOCIATION SCHOOL SRIRACHA

URL：<https://www.tjas.ac.th/>

児童生徒数 小学部 432名 中学部 81名

## 1. はじめに

日本人にとってタイという国は観光や料理で人気があり、コロナ前は毎年たくさんの日本人が観光で訪れていた。タイには日本人学校が2つある。1つは首都バンコクにある。2つ目は、タイの首都バンコクから南東におよそ100キロメートルのチョンブリ県シラチャ郡にあるシラチャ日本人学校である。私は、2つ目のシラチャ校に3年間勤務した。

シラチャは1990年代以降、多くの日本企業が周辺の工業団地に進出することによって日本人移住者も急激に増え続け、高層のコンドミニアムが建ち並ぶようになった。日本語の看板を目にすることも多く、日系のスーパーマーケットや日本食を提供するレストランも多い。今後も変貌を遂げながら発展していく地域として期待されている場所である。私はこの学校の3年間で、日本では体験できないようなことをたくさん経験した。代表的なことは交流会である。現地の学校と交流活動を行い、お互いの理解を深めるとともに、友好を深めるものである。その他にもプーケット補習校訪問、バーンノーク小学校訪問などの現地理解教育をきっかけに、日本の教育とタイの教育の特徴や違いを感じる場面がいくつもあった。ここにその概略を紹介したい。

## 2. ブラパ校 交流会

タイのブラパ大学附属小学校（以下ブラパ校）と交流会を行った。ブラパ校はシラチャ校からバスで30分以内にある大学附属校であり、学力が高い学校である。全体でオープニングセレモニーを行い、両校でタイの楽器や太鼓で演奏をした。その後は学年ごとの交流で、私の担当学年はソーラン節をタイの児童に教えた。この日のために、日本人学校の児童は関係するタイ語を覚えていた。また、身振り手振りや見本を見せたりして教えていた。タイの児童は学ぶ意欲が高く、すぐに踊りを覚えることができた。最後に、はっぴを着て一緒に踊った。

タイの児童は体育で習っているムエタイを教えてくれた。掛け声にあわせてキレのよい動きであった。タイの児童は交流には慣れていて、機転を利かせた教えた方、関り方をしていた。タイの児童の方がコミュニケーションに積極的で慣れている印象を受けた。



ソーラン節を教える様子

## 3. プーケット補習校訪問

プーケット県は、タイ国内で唯一島に設置された県である。バンコクから飛行機で1時間程度のところにあり、世界各国から年間を通じ多くの観光客が訪れる場所である。プーケットには補習校があり、26人の日本人の児童が学んでいる。土日を中心に週に1回通ってくる。平日は現地校やインター校でタイ語、英語で授業を受けている。家で日本語を話さないためコミュニケーションがとれない子もいた。初めに体育で体づくり運動を教えた。触れ合いながら楽しく運動することができた。普段、現地の学校では並ぶことがないとのことで列を作るのは難しかった。リレーでは自分のチームのメンバーを覚えること、バトンパスをすることが難しそうであった。最後は、長縄跳びを行った。長縄跳びを体験したことがないようだったが、楽しむ様子が見られた。

国語の授業は4時間行った。作文、音読、読み取りなどを行ったが、学力に差があり、一斉指導が難しかった。日本人学校の場合は、日本の学校と変わらずに指導できるが、現地校、インター校に通っているプーケットの児童は個性的でのびのびしており、個別の指導の方が効果的であった。また、いろいろな言語に触れる機会が多くあり、語学力が高いと感じた。

#### 4. バーンノーク小学校訪問

タイ現地のバーンノーク小学校はシラチャ校からバスで45分以内にあるパタヤ郊外にある。全校で約120名の小規模校である。朝は8時から全校で朝礼を行う。国歌を歌い、仏教の経典の一部を暗唱していた。教員は8人と少ない。タイの学校では教員や僧侶に対する尊敬の気持ちが強く、前を通る時、話を聞く時に教員よりも頭の位置を低くする習慣がある。また、教員の話聞く姿勢、態度がよい。そして、教員が少ないことを補うために、全国統一のビデオ学習を多用している。一斉でタイ語、算数、社会、理科のビデオを見たり、書いたり、読んだりするなどの勉強方法であった。その授業を4~5時間と続けて行っていた。タイの児童の集中力、持続力に驚いた。一方で日本の教育は、教員の人数が多く、一人ひとりの様子を細かく見取っているように感じた。



先生の前を頭を低くして通る様子



ビデオ学習をする様子

#### 5. まとめ

3年間のシラチャ日本人学校への派遣を経て、貴重な経験をすることができた。また、現地理解教育でブラパ校の小学生、インター校で学ぶ日本人小学生、タイの公立の小学生など様々な小学生と出会えたことがよかった。改めて、学習規律を重視する日本の教育のよさに気づくことができた。しかし、日本の教育は形がしっかりしているが、変化への対応は遅いように感じた。タイではコロナ禍で2020年の4月にロックダウンになり、登校禁止が決まった。そして、そのわずか1週間後からオンライン学習が始まった。シラチャ日本人学校でもグーグルクラスルームを活用したオンライン配信で、毎日6時間授業をする日が約2か月間続いた。決定してからの対応

が速く驚いた。前進しながら問題点を修正していくのがタイの教育の方法であると感じた。

今後、海外に出て活躍する児童はますます増えてくると考えられる。タイで経験したこと、感じたことを児童に伝えることは、「海外って面白そう。行ってみたい」「自分も海外で挑戦したい」と考える児童が増えるきっかけになるのではないかと考えている。これを生かしグローバルな感覚を育てていくことに、一層尽力していきたい。